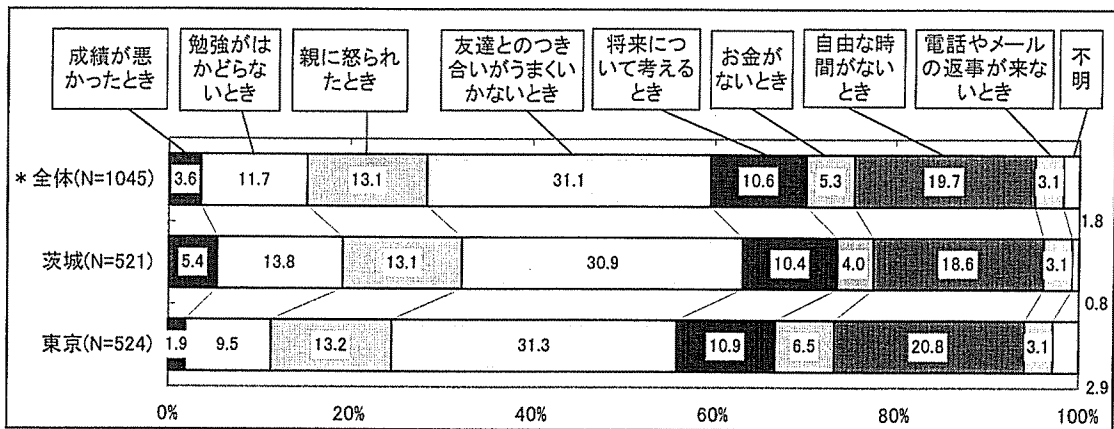


2. 社会関係

(1) 友人の重要性

① ストレスを感じる時

(図表 40) ストレスを感じる時



(図表 41) ストレスを感じる時別人命に対する意識

	家族だけ	友達も	知らない人も	助けない	不明	総計
成績低迷	0.0%	44.7%	44.7%	10.5%	0.0%	100.0%
勉強停滞	4.9%	59.0%	30.3%	5.7%	0.0%	100.0%
親の叱責	2.9%	65.7%	27.7%	2.9%	0.7%	100.0%
友人関係	5.2%	60.9%	32.0%	1.8%	0.0%	100.0%
将来設計	4.5%	59.5%	28.8%	7.2%	0.0%	100.0%
金欠	5.5%	50.9%	30.9%	10.9%	1.8%	100.0%
多忙	5.3%	59.2%	27.7%	6.8%	1.0%	100.0%
返信なし	6.3%	50.0%	43.8%	0.0%	0.0%	100.0%
不明	0.0%	26.3%	26.3%	21.1%	26.3%	100.0%
総計	4.6%	58.8%	30.7%	5.1%	0.9%	100.0%

単純集計の結果から、高校生の日常生活における友人関係の比重の大きさが分かった。ここから、友人の動静に一喜一憂している高校生の姿が垣間見られる。

「成績が悪かったとき」や「勉強がはかどらないとき」にストレスを感じている高校生の割合が茨城で高く、「お金がないとき」や「自由な時間がないとき」にストレスを感じている高校生の割合が東京で高いことから、茨城の高校生においては勉強の比重が大きく、東京の高校生においては娯楽の比重が大きいといえよ

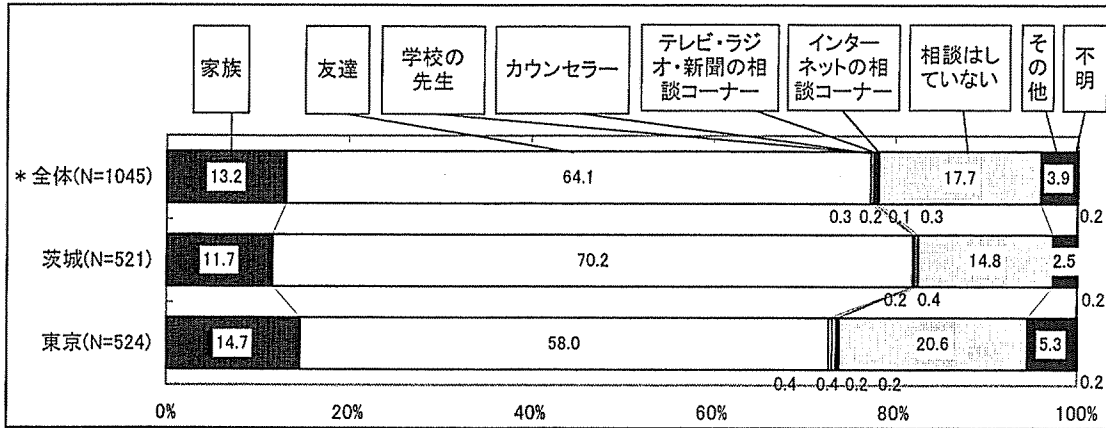
う。

「成績が悪かったとき」にストレスを感じている高校生は、相対的に少ないが、そのグループには、家族や友達だけでなく、知らない人の人命も助けると答えた高校生の割合が高い。もっとも、このグループには、「助けにはいかない」と答えた高校生も多いので、成績を気にしている高校生は、向社会性の高い高校生と非社会性の高い高校生に二極分化しているのかもしれない。

「助けにはいかない」と答えた高校生の割合が相対的に高いのは、「お金がないとき」にストレスを感じている高校生である。ここから、拝金主義と自己中心主義との間の相関を推知することができよう。逆に、「助けにはいかない」と答えた高校生の割合が相対的に低いのは、「親に怒られたとき」や「友達とのつき合いがうまくいかないとき」にストレスを感じている高校生である。人間関係に鋭敏な感覚が、向社会性の高い傾向をもらたしていると思われる。

②悩みの相談相手

(図表 42) 悩みの相談相手



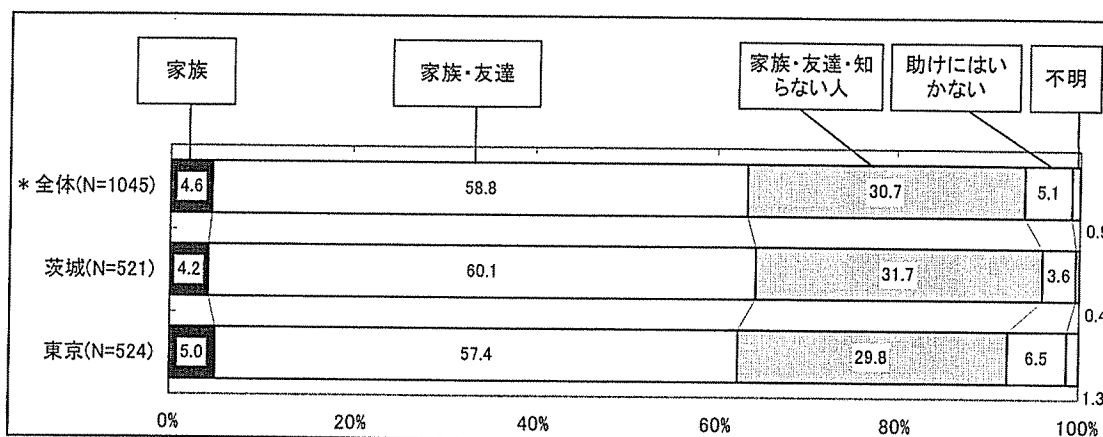
(図表 43) 悩みの相談相手別規範意識

	万引き	いじめ	たばこ	援助交際	悪くない	不明	総計
家族	4.3%	76.1%	5.8%	11.6%	2.2%	0.0%	100.0%
友達	7.9%	77.9%	2.8%	8.7%	2.1%	0.6%	100.0%
先生	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
カウンセラー	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
医者	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
マスコミ相談	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
ネット相談	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
相談しない	15.1%	68.6%	7.0%	3.8%	3.8%	1.6%	100.0%
その他	7.3%	78.0%	4.9%	4.9%	4.9%	0.0%	100.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
総計	8.8%	75.6%	4.2%	7.9%	2.6%	0.9%	100.0%

ここでも、高校生の日常生活における友人関係の比重の大きさが示されている。「友達」に相談している高校生と比較して、「相談はしていない」高校生では、「いじめ」を最も悪いと答えた割合が、10ポイント低い。ここから、人間関係を期待しているグループは、一貫して人間関係に関心を寄せているが、人間関係に頼っていない高校生は、人間関係におけるトラブルをそれほど問題視していないといえよう。

③人命に対する意識

(図表 44) 危険を承知で助けたいと思う人



(図表 45) 危険を承知で助けたいと思う人別高校生同士での逸脱行為の防止

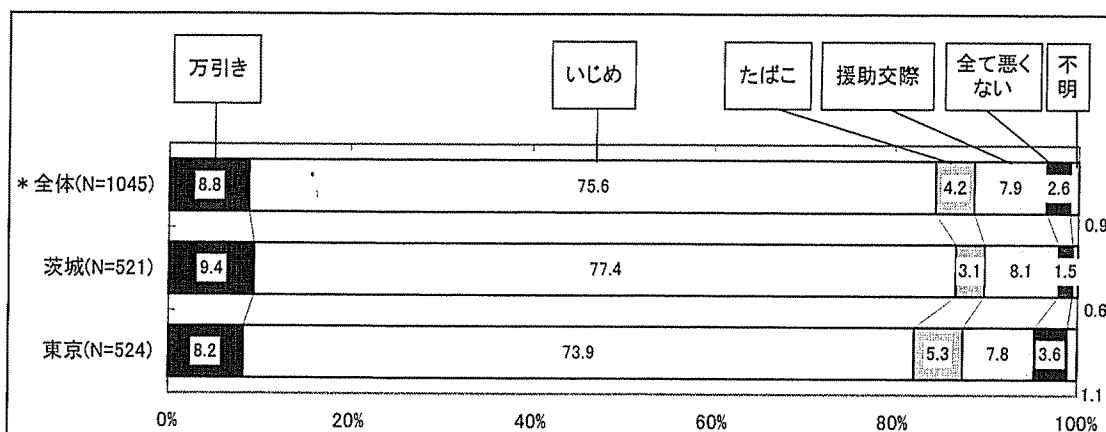
	注意	示唆	祈願	放置	先生 伝達	親伝達	無関心	不明	総計
家族だけ	25.0%	22.9%	14.6%	22.9%	0.0%	2.1%	10.4%	2.1%	100.0%
友達も	37.6%	26.9%	10.3%	18.7%	0.3%	0.0%	6.0%	0.2%	100.0%
知らない人も	47.7%	23.4%	5.6%	17.8%	0.3%	0.3%	4.0%	0.9%	100.0%
助けない	15.1%	15.1%	18.9%	24.5%	1.9%	0.0%	24.5%	0.0%	100.0%
不明	22.2%	11.1%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	100.0%
総計	38.9%	24.9%	9.6%	18.9%	0.4%	0.2%	6.5%	0.7%	100.0%

ここでも、高校生の日常生活における友人関係の比重の大きさが示されている。もっとも、知らない人も助けると答えた高校生も3割いる。

危険を承知で助けたいと思う人の範囲を「家族・友達・知らない人」と答えた高校生では、万引きをしている友達に対して直接「やめた方がよいと直接注意する」と答えた割合が高く、「やめてほしいが、放っておく」と答えた割合が低い。反対に、誰も「助けない」と答えた高校生では、万引きをしている友達に対して直接「やめた方がよいと直接注意する」と答えた割合が低く、「やめてほしいが、放っておく」と答えた割合が高い。ここから、他人に関心を寄せるグループが優勢であるものの、一貫して、他人とは関わりたがらないグループが存在していることが分かる。

④規範意識

(図表 46) 最も悪いと思うこと



(図表 47) 最も悪いと思うこと別恥の意識

	法に違反	親に背反	先生に背反	友達を裏切る	決意を不実行	恥なし	不明	総計
万引き	6.5%	0.0%	1.1%	42.4%	42.4%	6.5%	1.1%	100.0%
いじめ	10.3%	0.5%	0.5%	53.7%	29.5%	5.3%	0.3%	100.0%
たばこ	18.2%	4.5%	2.3%	22.7%	40.9%	11.4%	0.0%	100.0%
援助交際	14.5%	1.2%	0.0%	45.8%	32.5%	6.0%	0.0%	100.0%
悪くない	0.0%	0.0%	0.0%	48.1%	29.6%	22.2%	0.0%	100.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	11.1%	44.4%	100.0%
総計	10.2%	0.7%	0.6%	50.2%	31.4%	6.2%	0.7%	100.0%

ここからも、高校生の日常生活における友人関係の比重の大きさが確認できる。また、「いじめ」「万引き」「援助交際」「たばこ」の順に、高い割合を示していることは、高校生にとって悪いことは、他人に損害を与えるものであるといえよう。

「全て悪くない」と答えた高校生でも、その二人に一人は「友達を裏切ること」を恥ずかしいと思っている。しかし、このグループには、「どれも恥ずかしいとは思わない」と答えた高校生が五人に一人の割合で存在しており、こうした高校生が潜在的非行少年であると思われる。